

## 表紙・目次等

権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	ベトナム：党官僚国家の新たな挑戦
発行年	1996
出版者	アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00018181">http://hdl.handle.net/2344/00018181</a>

# ベトナム

## 党官僚国家の 新たな挑戦

木村哲三郎 著

木村哲三郎 著

ベトナム——党官僚国家の新たな挑戦

アジア経済研究所

# ベトナム

——党官僚国家の新たな挑戦

## 筆者紹介

木村哲三郎（きむら・てつさぶろう）

一九三三年生まれ、東京大学文学部卒。アジア経済研究所の派遣員として一九六六～六八年サイゴンに滞在、テト攻勢に遭遇。パリ、パークレイの研究生活を含めて三〇年余の間インドシナ研究にかかわる。一九九一年亜細亜大学に移り、現在、同大学国際関係学部教授。

## 著書

『ベトナムの国際関係と経済発展』（アジア経済研究所一九八七年）『*The Vietnamese Economy* 1975-86, Tokyo, IDE, 1989.

## 論文

「冷戦末期のベトナム・旧ソ連関係」（『アジア研究所紀要』（亜細亜大学）一九九四年）、「ベトナムにおける経済政策の諸問題」（松本・川本編著『ベトナムと北朝鮮』大修館書店 一九九五年）

## アジア現代史シリーズ 5

ベトナム——党官僚国家の新たな挑戦

著者 木村 哲三郎

発行所 アジア経済研究所

東京都新宿区市谷本村町42 電話 (3353) 4231(代)

1996年3月29日発行© 無断転載を禁ず 印刷/製本 三陽社

ISBN 4-258-21005-6 C 3033

アジア現代史シリーズ 5

ISBN4-258-21005-6 C3033

ベトナム——党官僚国家の新たな挑戦 II 目次

はじめに

序章 独立と統一への歩み

1	ベトナムの成立	1
	(1) インドシナ共産党	5
	とインドシナ共産党	10
	ミンの成立	12
	(2) 左翼路線の破綻	7
	(4) コーチシナの蜂起	11
	(5) ベトナムの成立	12
2	八月革命とフランスの復帰	14
	(1) フランスの復帰	16
	(2) コーチシナ問題	18
3	抗仏戦争	21
	(1) ベトナム労働党成立	22
	(2) 戦域の拡大	24
4	ジュネーブ会議	28
	(1) 中国の役割	29
	(2) ジュネーブでの解決についての評価	31

	5	ベトナム戦争.....	35
		(1)土地改革の失敗	36
		(2)レ・スアンの台頭	38
		(3)労働党第三	
		回大会	40
		(4)米軍の介入	42
		(5)パリ協定	44
		第1章 統一と南部の改造.....	47
1		南ベトナム臨時革命政府の実体.....	48
2		統一の手續き.....	54
3		統一ベトナム政府の登場.....	56
4		第四回党大会と第二次五カ年計画.....	60
5		農業の集団化.....	65
6		商工業の改造.....	71
		第2章 ソ連との同盟.....	75
1		越中対立.....	77
2		アメリカとの正常化交渉.....	90
3		越ソ友好協力条約.....	94
4		ベトナムのカンボジア侵攻.....	98
		第3章 計画経済の破綻と改革の試み.....	103
1		経済危機.....	104



	2	第四期中央委員会第六回總會	111
		(1) 政策転換の意味	112
		(2) 内閣改造	118
		(3) 新憲法採択	122
	3	新経済政策(ネップ)	
		(1) (最終) 生産物請負制	126
		(2) 政府決定二五号(第二五号決定)	129
		(3) 価格改訂	131
	4	第五回党大会	133
		(1) 強硬な反中国路線	134
		(2) アバラチキ(共産党機関員)の支配	137
		(3) グエン・カク・ピエンの公開書簡	139
		(4) レ・ドク・ト批判	143
第4章		二つの路線間の闘争	147
1		第三次五カ年計画の実績	149
2		カンボジア問題	159
3		二つの路線の闘争	166
4		経済改革とインフレ	174
		(1) 改革への潮流	174
		(2) 第五期中央委員会第八回總會	177
		(3) 改革措置	179
		(4) インフレの激化と党内闘争	181
第5章		ドイモイの時代	189
1		第六回党大会	191

	2	経済改革……………	203
		(1)第六期中央委員会第二回総会……………	204
		(2)国営企業の経営管理改革……………	207
		(3)外国投資法……………	210
		(4)政治局第一〇号決議……………	212
		(5)政治局第一六号決議……………	215
		(6)金融・価格面の改革……………	216
	3	カンボジア問題の解消……………	218
	4	インフレの克服……………	232
		(1)生産面の実績……………	234
		(2)インフレの鎮静化……………	240
		(3)国営経済セクターの強化……………	242
	5	政治改革……………	245
		(1)国会の地位と言論の自由……………	246
		(2)党の指導的役割……………	253
		(3)民主化要求を拒否……………	258
	第6章	新しい国際分業への参入……………	263
	1	統治システム……………	265
		(1)ベトナム共産党第七回大会……………	265
		(2)一九九二年改正憲法……………	271
		(3)党下部組織の整頓……………	272
	2	世界統一市場への復帰……………	276
		(1)ベトナムの選択肢……………	277
		(2)対中国関係の改善……………	279
		(3)ASE……………	279

AN加盟と越米国交正常化 283

工業化の展望 286

(1)新工業化戦略 287

(2)外資の役割 291

(3)工業発展の方向 293

注 316

参考文献 318

略年表 321

索引 333

あとがき